

レスポンシブル・ケア活動 102-12,102-15,103-1,103-2,103-3

花王のアプローチ

花王のアプローチ

日々の安全確保と環境保全を図るため、化学に携わる企業の自主管理活動である「レスポンシブル・ケア(RC)活動」に取り組んでいます。

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

製品の安定供給や品質・安全性の確保、安全で衛生的な労働環境の提供および事業活動による環境負荷の低減は、国内外に拠点を設け、幅広い産業界に多種多様な素材・製品・システムを提供する化学メーカーとして、果たすべき重要な社会的責任です。

花王が提供する価値

化学産業界の自主的な環境・安全・健康を確保する活動である「レスポンシブル・ケア(RC)活動」を推進することで、倫理的な観点からも社会との信頼関係の構築を通じた持続可能な社会づくりをめざしています。

「2030年のありたい姿」の実現に関わるリスク

RC活動の基本項目一つひとつが化学産業界にとって重要活動であるため、一つでも欠けると社会的レピュテーションが毀損されます。

「2030年のありたい姿」の実現に関わる機会

企業の自主的な活動である「レスポンシブル・ケア(RC)活動」を推進することで、地域との強い信頼関係が構築されることは、ステークホルダーの花王製品や会社への信頼につながります。

貢献するSDGs



方針

花王は、製品の開発・生産・物流・使用・廃棄・リサイクルまでの事業の全段階において、人の安全と環境の保全に十分配慮し、サステナブルな社会の実現に貢献していくことを理念に掲げています。

1995年の日本レスポンシブル・ケア協議会設立当初から「レスポンシブル・ケア(RC)活動」に参加しており、

2008年には当時の尾崎社長が「RC世界憲章」の支持宣言書に、さらに2014年には澤田社長が改訂された「RC世界憲章」にそれぞれ署名を行ない、RC活動を花王グループ全体で推進していくことをコミットしています。

化学産業界の「環境・安全・健康」に関する「レスポンシブル・ケア(RC)活動」の基本項目*の考え方に則った「花王レスポンシブル・ケア方針」を定め、協力会社を含めた花王グループ全体で毎年目標を策定し、年間計画に基づいた活動を継続的にこなしています。

*「レスポンシブル・ケア(RC)活動」の基本項目
「環境保全」「保安防災」「労働安全衛生」「化学品・製品安全」「物流安全」の5つの推進項目と「社会とのコミュニケーション」



→花王レスポンシブル・ケア方針
www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/policy/responsible-care.html



→詳細はP177「コーポレート・カルチャー」>労働安全衛生

体制

レスポンシブル・ケア推進委員会は、社長が委員長を務める内部統制委員会内の一委員会として位置づけられており、四半期に一度、内部統制委員会に報告を行っています。内部統制委員会は取締役会へ傘下の委員会の活動報告をまとめて行ないます。

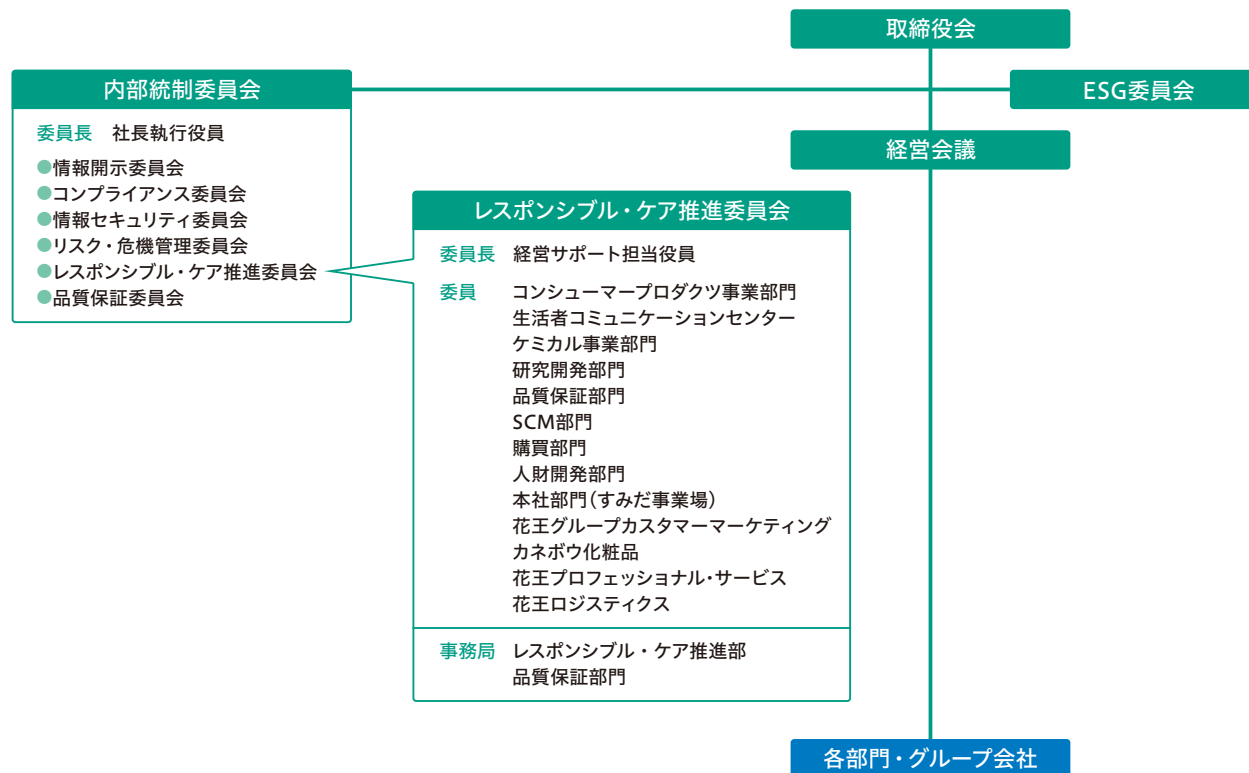
レスポンシブル・ケア推進委員会の委員長は部門統括(常務執行役員)が務め、日本国内の8つの推進部門※の代表に加え、4部門の代表と品質保証部門の担当を加えた委員14人で構成しており、毎年1回開催しています。事務局はRC推進部と品質保証部門が務めています。

花王(株)を含む花王グループ内各ケミカル会社は、各国の化学工業会に参画しRC活動を推進しています。

※ 8推進部門

本社部門(茅場町事業場)、本社部門(すみだ事業場)、ケミカル事業部門、花王プロフェッショナル・サービス部門、研究開発部門、SCM部門、販売部門、花王ロジスティクス部門

レスポンシブル・ケア推進体制



※2018年12月現在

教育と浸透

RC推進委員会事務局や各推進部門のRC担当者は、社員や協力会社の社員を対象に、環境や労働安全衛生活動などのRC教育を定期的を実施しています。

2018年にRC推進委員会事務局が社員を対象に実施したRCの集合教育は49回、のべ1,212人(日本23回、1,043人/アジア・米州・欧州26回、169人)が参加しました。

2015年には、日本花王グループ社員を対象にRCの基礎知識について教育を実施しており、その後の新入社員や中途入社社員に対しても同様の内容でeラーニングを実施しています。

ステークホルダーとの協働

花王グループ各社はRC活動の基本項目の一つである「社会とのコミュニケーション」に則り、積極的にステークホルダーとの交流等、さまざまな活動を実施しています。



→詳細はP113「コミュニティ>社会貢献活動」

中長期目標

花王は2020年にグローバルでトップレベルの安全確保と環境保全を満たす企業になるべく、日々のRC活動を推進しています。

この目標を達成するために、現在のRC活動のさらなるレベルアップ、および活動範囲の拡大、マネジメントシステムの向上をめざしていきます。

中長期目標を達成することにより期待できること

コスト低減あるいは収益拡大

事業活動が正常に行なわれ、安定した商品供給が行なわれるとともに、不要な経費の発生が抑えられます。

社会に及ぼす効果

事業活動地域において環境負荷の低減、衛生状況の改善、社会への還元が行なわれ、その結果、地域住民を含むステークホルダーの生活レベルの向上に貢献できます。

2018年の実績

実績

2018年は9月26日に「花王グループRC推進委員会」、11月5・6日に「グローバルRCミーティング」、12月19日に「日本RCミーティング」をそれぞれ開催しました。

7月～8月にかけて「RC事務局監査」を日本およびグローバルの各会社、推進部門に対し実施しました。

またRC事務局監査の一環として、RC推進委員会事務局は各推進部門の自己点検に立ち会い、規定等に基づきRC自己点検が適切に実施されているか同行し確認しています。2018年は7月に実施されたSCM部門の安全防災部会監査に、RC推進委員会事務局が立ち会いました。



→詳細は
P198「具体的な取り組み:RC活動の標準化」
P200「具体的な取り組み:RC事務局監査実施状況」

実績に対する考察

環境では廃棄物目標が、安全では全項目が未達となりましたが、2020年までは当初目標を維持し、推進します。

具体的な取り組み

RC活動の標準化

日本国内の8推進部門およびすべての海外関係会社は、RC推進委員会で決定された花王RC目標をもとに、それぞれの業務内容や業種・業態に応じた活動計画を立案し、以下のようなサイクルでRC活動を推進しています。

毎年9月に開催する「花王グループRC推進委員会」では、活動方針の徹底やマネジメント体制の強化に関する施策を討議するほか、花王グループの中期目標と8月に行なうRC事務局監査の結果をもとに、次年の数値目標と活動目標を審議します。

10月～11月に開催する「グローバルRCミーティング」では、RC推進委員会事務局から「花王グループRC推進委員会」で決められた花王グループの中期および次年目標の説明を行ない、各社に次年の目標と計画の策定を依頼します。各社からはRC活動状況が発表され、グループ間での情報の共有を図ります。

12月に開催する「日本RCミーティング」では、「花王グループRC推進委員会」で決められた花王グループの

数値目標と活動目標をもとに、各推進部門のRC推進委員が次年の計画案を発表し、一つひとつ審議します。この会議で承認された内容は、RC推進委員が各推進部門に持ち帰り、推進部門ごとにより細かく設けた活動ユニットへ伝えることで、現場に密着した活動の継続的な改善・レベルアップを図っています。

2018年は、9月26日に「花王グループRC推進委員会」を開催しました。事務局からは2018年のRC目標に対する花王グループ全体の上半期の実績やRC事務局監査結果を報告しました。また、推進部門から各部門の推進活動状況が発表され、最後に審議事項として、2019年の花王グループRC目標が承認されました。

11月5・6日には「グローバルRCミーティング」を本社で開催し、日本以外では15のグループ会社(前年12会社)から18人が参加しました。会議では花王グループのRC活動方針の理解を深め、2019年の目標の確認を行なうとともに、RC活動の活性化とレベルアップを目的に各社のRC活動の状況確認とアドバイス、強み弱みの理解、ベストプラクティスの共有、グローバルRC

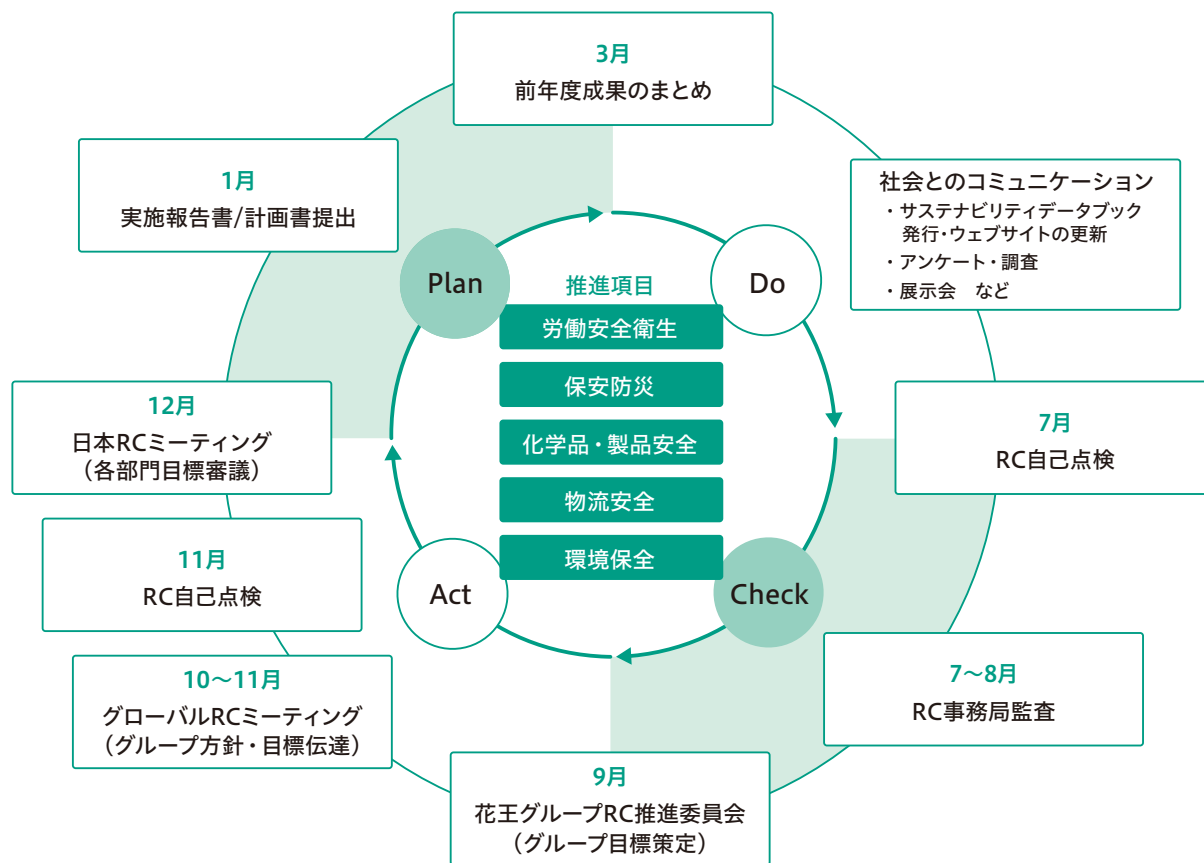
メンバーのコミュニケーション強化を図りました。

12月19日の「日本RCミーティング」では、各推進部門のRC推進委員が2019年の計画案を発表し、審議・承認されました。また事務局から2018年の環境および安全の実績報告を行ないました。



日本RCミーティング

RC活動の年間サイクル



環境・安全データベースなどを活用

花王は、環境負荷の低減や労働災害・事故発生数の低減を図るための環境・安全データベースである「環知安システム」※を構築して運用しています。

このシステムでは、花王全体の温室効果ガスの排出量や労働災害の発生度数率・強度率などを自動算出することができ、環境負荷低減や労働災害防止に活用しています。

グループでより効率的に環境・安全データを利用するために、新しいシステムへの移行を検討中で、現在情報システム部門とともに具体的なシステムの検討を行っています。

※ 環知安システム

エネルギー使用量、温室効果ガス排出量、ばい煙排出量、水使用量、排水量、排水濃度測定結果、土壌・地下水測定結果、PRTR 法対象化学物質の取扱量および排出量・移動量、廃棄物等の発生量・排出量・最終埋立処分量、労働災害統計、交通事故統計など、多様なデータを共有している。

RC事務局監査実施状況

花王は、RC活動の進捗状況や課題を把握するために、7月に各推進部門が活動ユニットに対してRC自己点検を、8月にRC推進委員会事務局より選出された監査チームが日本の各推進部門および海外グループ会社に対して、監査を実施しています。

また、これらの結果を9月の「花王グループRC推進委員会」および11月の「グローバルRCミーティング」で報告するとともに、翌年の数値目標や活動目標の策定に活かしています。

なお本監査は全社規程(B-02-00「レスポンシブル・ケア事務局監査規程」)に基づき実施されるもので、監査に用いるチェックシートの設問ごとに実施状況(実施の有無、実施率)を点数付けすることで評価します。

2018年は7月から8月にかけて、日本の8推進部門、海外は安全と環境面の影響度を配慮して工場を持つグループ会社19社※に対して、チェックシートを用いてRC事務局監査を実施しました。2018年はチェックシートの監査範囲を従来のものから拡大し、より高度な活動の推進状況を確認しました。

また今年は環境・安全に関する法令の遵守状況および体制について、別途チェックシートを作成し監査を実施しました。

日本については、各推進部門と対面で法的要求事項・基準等の遵守状況、計画の進捗状況や数値目標の達成状況などを確認しました。海外については、法令遵守体制を確認するチェックシートを送付し、その回答結果について書類監査を実施しました。併せて今回の監

査で2017年の監査時の指摘事項についてはすべて対応済みであることも確認しました。

2018年のRC事務局監査の結果について、日本では全8推進部門で評価平均点が4.5点以上を獲得しRC推進体制が整ってきたことが確認できましたが、継続観察が必要な項目として労働安全に関する指摘が多くなりましたため、さらなるレベルアップを依頼しました。海外ではすべての会社で2017年より評価点数の改善がみられました(下表参照)。

※ 上海花王、花王(合肥)、上海花王化学、花王(上海)化工、花王葫芦島錦星鑄造材料、花王(台湾)、花王(ベトナム)、ピリピナス花王、花王インダストリアル(タイランド)、ファティケミカル(マレーシア)、花王(インドネシア)、花王インドネシア化学、花王USA、花王スペシャルティーズアメリカズ、キミ花王、花王マニュファクチャリングジャーマニー、ドイツ花王化学、モルトンブラウン、花王コーポレーション(スペイン)

RC事務局監査実績(2018年)

| | SCM部門 | 研究開発部門 | 事業部門 | コーポレート部門 | 日本グループ会社※1 | 海外グループ会社※2 |
|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 設問数 | 202 | 159 | 249 | 331 | 534 | 5,982 |
| 継続観察が必要な項目 | 2 | 8 | 1 | 5 | 6 | — |
| 評価平均点【5点満点】※3 | 4.92 (4.88) | 4.92 (4.94) | 4.88 (4.82) | 4.90 (4.88) | 4.90 (4.84) | 4.48 (4.30) |

※1 日本グループ会社
花王プロフェッショナル・サービス(株)、花王グループカスタマーマーケティング(株)、花王ロジスティクス(株)

※2 海外グループ会社
19社(アジア12、欧米7)

※3 ()内は2017年の結果

レスポンシブル・ケア活動 403-1(労働安全衛生2018) 具体的な取り組み

安全意識アンケートの実施

従業員の安全に対する意識を調査し、今後の安全活動に役立てるため、独自の「安全意識アンケート」を開始しました。初年度となる2018年は日本のSCM部門に対し実施しました。今後、研究開発部門、販売部門、海外従業員に対しても順次本調査を実施していきます。

国際マネジメントシステム認証状況

花王は、RCマネジメントシステムを全拠点を対象に導入していますが、環境の国際規格であるISO14001、労働安全衛生の規格であるOHSAS18001の認証や各国の認証も受けています。

環境に関する認証取得状況(ISO14001等)

外部認証を受けている工場の割合は95%です(総生産量重量基準)。

活動の標準化・高度化をめざし、個別工場で取得していた認証の統合を実施し、日本とアジアの15サイトで完了しました。さらに2018年は、2015年版への移行が完了しました。今後、統合する工場を増やすなど、認証取得拠点の拡大を実施していきます。

労働安全衛生に関する認証取得状況(OHSAS18001等)

労働安全衛生のマネジメント規格は、日本と比較して労働災害が多く、労働管理の強化が必要な海外の工場を取得を推進しており、その割合は35%です(総生産量重量基準)。

今までは個別工場で認証を取得していましたが、活動の標準化・高度化をめざし、アジアの5工場での統合が2018年に完了しました。今後、ISO45001への移行や統合する工場を増やすなど、認証取得拠点の拡大を実施していきます。

品質に関する認証取得状況(ISO9001等)

外部認証を受けている工場の割合は95%です(総生産量重量基準)。今後、認証取得工場を拡大していきます。

外部認証取得一覧



→「ISO等認証取得一覧」

www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/activity-data/certification.html



SCM部門が「レスポンシブル・ケア(RC)」の大賞を受賞

花王SCM部門が「花王生産事業場での環境負荷低減活動」において、一般社団法人日本化学工業協会「第12回RC賞」の最高位である「RC大賞」を受賞しました。

業界の中でも早期から工場生産エネルギーの都市ガス化や、ガスコージェネレーション設備(熱電併給型のエネルギーシステム)を導入するなど継続的な省エネ活動の結果、CO₂排出原単位を半減させた実績(2016年、対1990年比)が高く評価されました。そのほか、廃棄物のゼロエミッション(最終処分率)やフロン排出抑制などの環境負荷削減活動も高く評価されました。



表彰式